



十日町市【新潟県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年1月 ■人口：53,681人 ■面積：590km²
■担当課：十日町市教育委員会事務局文化スポーツ部文化財課
(平成30年3月現在)



十日町市は、歴史文化の特徴を「豪雪とともに生きてきた人々の知恵が育んだ歴史文化 ～縄文時代から受け継ぐ『豪雪と共に生きる暮らし』『豪雪と友とすることろ』」にまとめた。豪雪とともに生きてきた人々の知恵が育んだ歴史文化の証となる文化財等を「地域の財（たから）」として、人々の暮らしの中で保存・活用し、後世に継承していく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

豪雪、川・河岸段丘・山、縄文人と中世武士、
織物と稲作、雪国の暮らし

課題

- ・文化財等の保存策・調査研究の充実と、文化財等の整備や修復
- ・文化財等に触れる機会の創出に向けた普及啓発
- ・地域社会の中での保存活用に向けた関係者の連携

保存活用方針

- ・「地域の財（たから）」の適切な保存
- ・「地域の財（たから）」の普及啓発
- ・「地域の財（たから）」を地域社会の中での保存・活用

保存活用のための取り組み

新・十日町市博物館を拠点とした地域の歴史文化の発信

地域の歴史文化の発信拠点となる新十日町市博物館を平成32年（2020）6月に開館する。新十日町市博物館から歴史文化保存活用区域に向かい、さらに市域を巡ることで十日町市の歴史文化に対する理解を深めることができるよう、市内の施設等の連携を図る。



国宝「火焰型土器」を活用した縄文文化の発信

リオオリンピックに合わせて火焰型土器レプリカをブラジルに寄贈し、東京国立博物館と共同で触れる高精細レプリカを制作するなど、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として日本文化の源流である縄文文化を国内外に発信する事業に取り組んでいる。



文化財の保存・活用活動への市民参加

「十日町市博物館友の会」では9グループが調査・研究活動を行っている。また「十日町市古文書整理ボランティア」、「笹山遺跡ボランティア」、観光協会による「観光ガイド」、地域住民による「清津峡ガイドボランティア」などが歴史文化に関わる活動を行っている。

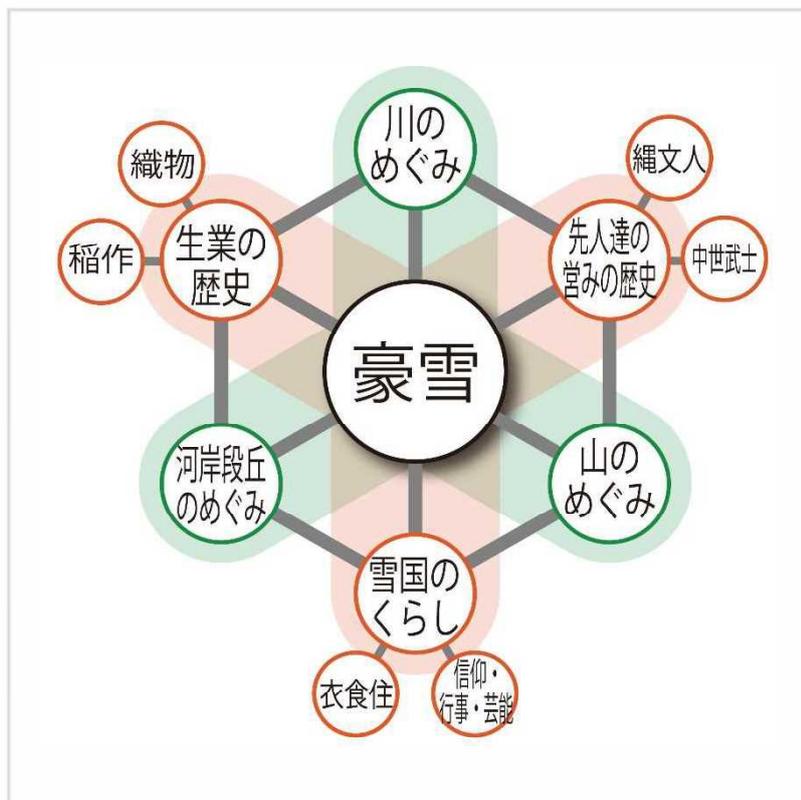


文化財活用のための官民あがてのプロジェクト

「火焰型土器のクニ 十日町 縄文ツーリズムプロジェクト」は、十日町商工会議所が中心となり、行政、観光協会などの関係団体、NPO法人、企業などが参画し、縄文文化・食・雪文化などの地域資源を活用した観光・特産品開発を目的として事業を実施している。



関連文化財群



十日町市の歴史文化は、豪雪を中心として「川、河岸段丘、山から成る〈豪雪が生んだ自然環境〉と「先人達の営みの歴史、生業の歴史、雪国のくらしから成る〈豪雪の中で育まれた歴史文化〉」が互いに連関して形成されてきた。その特徴に基づき、「豪雪と共に生きるくらし」「豪雪を友とするところ」をテーマに5つの物語を設定した。

ストーリー

- ① 雪国に住み継ぐ人々
～実は豊かだった豪雪地～
- ② 雪国の冬仕事
～雪ありて縮あり、雪は縮の親～
- ③ 雪国の食生活
～ダイコとコーコ、ツケナとニーナ
- ④ 雪国のごったくとごつつお
～めでたいものは大根種～
- ⑤ 雪国の美
～豪雪が育む大地の芸術～

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① 地域への誇りと愛着心の醸成

歴史文化基本構想策定記念講演会でのアンケートでは、構想について賛同する回答が多く得られた。合併による新市誕生後、市全体の歴史文化をまとめたものがなかったが、構想策定を機に未指定文化財等への関心が高まり、「大地の芸術祭」開催の効果と合わせて地域への誇りと愛着心の醸成が見込まれる。



② 歴史・文化による地域活性化

国宝・火焰型土器の東京オリンピック・パラリンピック聖火台モチーフ採用に向けた市民を挙げた運動をはじめ、商工会議所や観光協会との「縄文女子ツアー」、「豪雪体験ツアー」の実施、縄文文化をテーマにした大手企業とのコラボレーション企画など、歴史・文化による地域活性化への取組が着実に動き出している。



③ 地域内外からの支援・交流

人口減少などにより祭や行事の実施が困難な状況も見られる中、大白倉地区では「もみじ引き」にイギリスAAスクールが人的協力をし、「バイトウ」は地域外からの多くの支援を得て毎年実施されている。また、市指定文化財「旧村山家主屋」では坂口安吾ゆかりの新潟市や桐生市との交流も行われている。





妙高市【新潟県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：32,884人 ■面積：446km²
■担当課：妙高市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



市内に所在する歴史的・文化的な資源を文化財指定等の有無や有形・無形の別にこだわることなく、総合的に把握し、その保存・活用に向けた基本的な考え方をまとめている。市の歴史文化の特徴をふまえた8つの関連文化財群(ストーリー)を設定するとともに、個々の資源やストーリーをまちづくりに活用するために、保存活用計画の策定方針や3つの歴史文化保存活用区域を定めた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

妙高山の信仰、信越の国境、雪と水の恵み、
農山村の暮らし、近代の観光地化

課題

- ・各地域において歴史文化資源の保存・活用の担い手が不足している
- ・身近な歴史文化資源に対する関心が低く、価値や魅力が埋もれたままになっている

保存活用方針

- ・市の歴史文化の特性や魅力を伝えるストーリーを地域活性化に結びつける
- ・歴史文化資源の保存とともに、それらを支える周辺環境の維持・向上に取り組む

保存活用のための取り組み

情報の収集・発信と新たな担い手の育成

テーマに沿った悉皆調査や、講座・散策会・企画展等の啓発事業を通して、歴史文化資源に関する情報の収集・発信・共有に取り組み、地域内の身近な歴史文化資源の保存・活用に取り組むことのできる新たな人材や組織を育成する。



歴史文化の顕彰とコミュニティ活動の活性化

文化財の指定や登録、地域を代表する偉人の生誕100年や没後150年等に合わせた記念事業を地域住民と共同で開催し、地域の歴史文化を顕彰するとともにコミュニティ活動の活性化を図る。



関連文化財群を活用したツーリズム事業の展開

関連文化財群(ストーリー)に沿って、点在する歴史文化資源をパッケージ化し、ストーリーを体験することができるツーリズム事業を展開することによって、市全体の交流人口の拡大を図る。

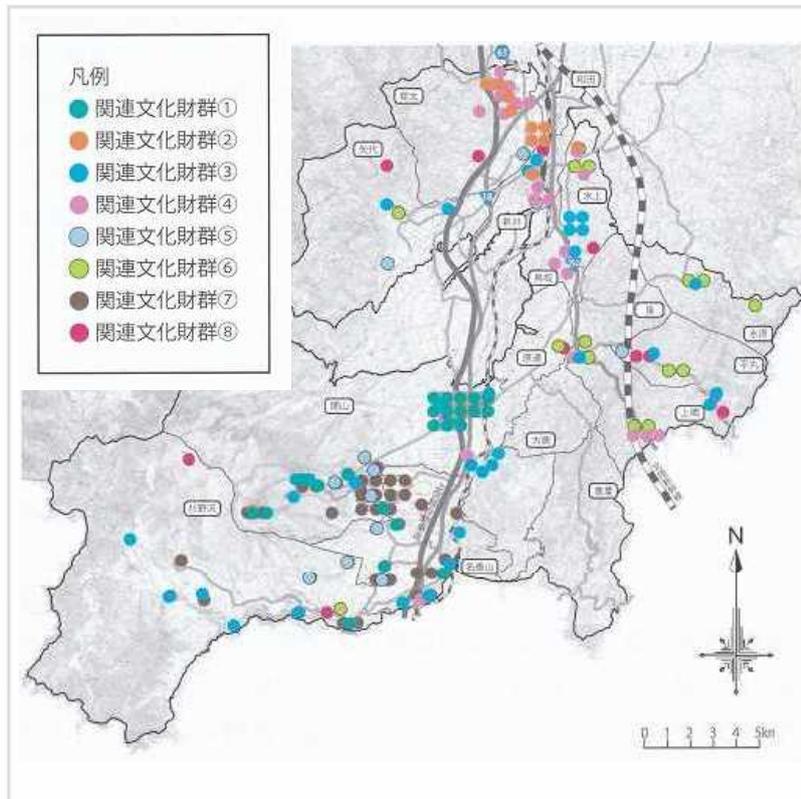


歴史文化保存活用区域の設定と保存活用計画の策定

市内の3地区を歴史文化保存活用区域に選定し、他の地区に先行して行政・自治会・地区協議会・文化財関係団体等で構成される協議会等を設立し、地域内の歴史文化資源の一体的な保存・活用に向けた「保存活用計画」の策定を目指す。



関連文化財群



妙高市が備える歴史文化の特徴を「1. 交通の要衝としての妙高市」、「2. 妙高山とともに生きる妙高市」、「3. 水と雪に恵まれた妙高市」の3つにまとめ、それぞれのテーマに沿って市内各地に所在する様々な有形・無形の歴史文化資源を組み合わせ、地域の特性や魅力を伝える8つのストーリーとして設定した。

ストーリー

- ① 妙高山の自然パワーを五感で取り込む
- ② 妙高の渡来系文化
- ③ 妙高水物語
- ④ 妙高が結ぶ越後と信濃
- ⑤ 雪国の中の雪国
- ⑥ 自然と自然になれる妙高
- ⑦ 霊山から観光の聖地へ
- ⑧ 妙高の大地を探る

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① 地域住民による自主事業の実施

各地域において、受け継がれてきた固有の歴史文化を再発見し、次世代へ語り継ごうとする取り組みが出てきている。神社の社殿再建200年を記念する秘蔵文化財の一斉公開、地域のコミュニティセンター改修に合わせた歴史資料の展示や偉人の顕彰展等が地域住民によって企画されている。



② ストーリーに沿った学びの展開

8つのストーリーを通して身近な地域資源の価値や魅力を発見する講座が定期的に行われている。教育委員会生涯学習課が主催する妙高はねうまカレッジ「まなびの杜」や市民団体が主催する「妙高市民大学講座」では、歴史文化に関するテーマを選定する際に歴史文化基本構想が活用されている。



③ ストーリーを活かした地域振興

8つのストーリーの設定によって、点在する歴史文化資源を新たな発想で結びつけた旅行商品の企画等が可能となり、水と信仰を介して広がりを見せる複数の庭園や滝をめぐるツアー等が企画されている。また、食を中心とした地域の産業を、その背景となる歴史文化とともに地域活性化に活用する取り組みが進められている。





上越市【新潟県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：194,856人 ■ 面積：974km²
■ 担当課：上越市教育委員会文化行政課（平成30年3月現在）



平成17年、14市町村が合併し、広大な〈新上越市〉が誕生した。当市には、海・山・川と多様な自然環境がそろう、縄文時代から現在まで連綿と続く長い歴史があり、そこから、たくさんのたからもの（文化財）が生まれ、残されている。たくさんの文化財を後世に伝えるため、文化財保護に関する考え方を〈新上越市〉の全域で統一し、「歴史文化」の範囲を市域全域として歴史文化基本構想にまとめた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

豊かな自然環境、越後の政治・経済・文化の中心、
交通・流通の要所、頸城は一つなり、地域づくり

課題

- ・ 従来の文化財保護だけでなく、構想を行政全体に反映させる必要性
- ・ 地域や文化財に携わる人や活動への支援や行政との協働の仕組み作り

保存活用方針

- ・ 地域の人々が自分の言葉で地域を語る
ことができる社会を目指す
- ・ 文化財とともに文化財を守る人及び
地域を守り育てる社会を目指す

保存活用のための取り組み

中核的文化財「吹上遺跡・釜蓋遺跡」の保存活用

構想で優先的に整備する対象とした吹上遺跡・釜蓋遺跡について、「保存活用計画」、整備活用の「基本計画」、「基本設計」、「実施設計」をまとめ、釜蓋遺跡公園を整備した。釜蓋遺跡ガイダンスを拠点に、発掘調査・展示・体験学習等を展開している。



文化財の保存 「確実な次世代への継承」

地域の方々から話を聞きながら、高い専門性と広い視野を持つ「文化財調査審議会」と連携し、未指定文化財の把握調査を継続。平成23年3月に策定した「上越市文化財の指定に関する基準」に基づき、文化財の指定を行っている。



人材育成 「確実にバトンをつなぐ」

上越市教育委員会が実施している「謙信KIDSプロジェクト」など、市内の子ども達を対象とした様々な体験活動が行われている。また、公民館活動を通して、子どもから大人まで、地域を知り、郷土愛を育む活動が行われている。

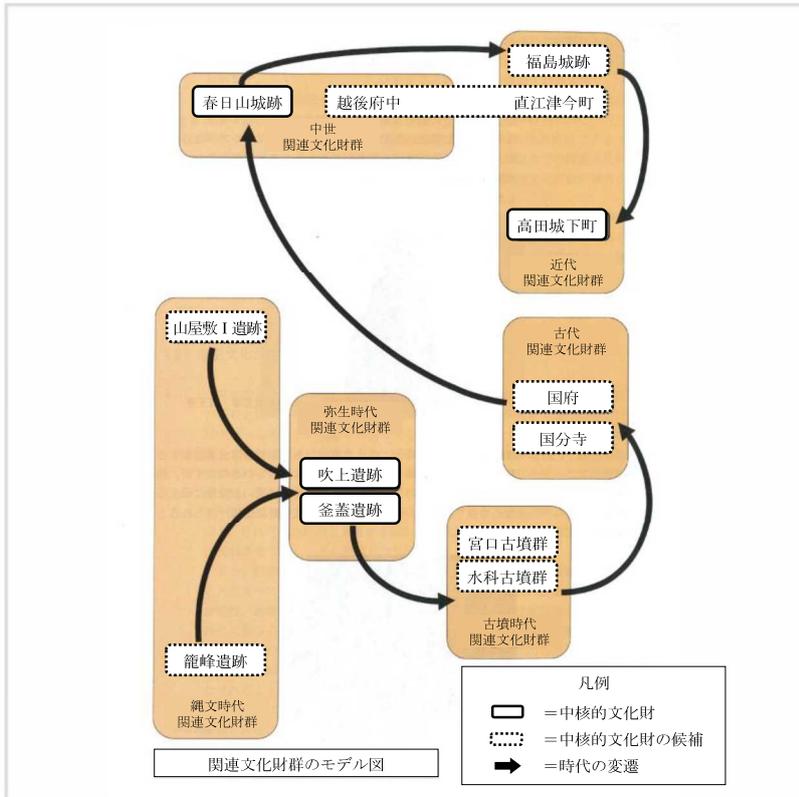


市民協働で行う「活かした文化財」の保存活用

国史跡春日山城跡では、地元の春日山城跡保存整備促進協議会等、地域の方々と協働で環境整備、保存活用を行っている。例えば、城跡の草刈は、平坦面を地元の方々が、急斜面を行政が業者委託するなど、役割分担等話し合いながら行っている。



関連文化財群



上越市は、各時代の権力者の交代に伴い、その拠点とする場所が変わり、その都度、政治・経済・文化の中心地が移動する歴史的特徴がある。そのため、各時代の拠点となった場所ごとに独自の歴史文化がある。歴史文化基本構想では、各時代の拠点となった場所の核となる文化財を「中核的文化財」とし、それと関係する文化財の集合体を「関連文化財群」と設定した。

ストーリー

- ① 原始～古代「吹上・釜蓋遺跡」
- ② 中世「春日山城跡」
- ③ 近世～近代「高田城下町と直江津今町」

策定後の成果（見込まれる効果）

① 釜蓋遺跡公園の整備・活用
中核的文化財のうち、原始～古代の「吹上遺跡・釜蓋遺跡」を優先的に整備する必要がある文化財群として位置付け、平成27年4月、上越妙高駅前に釜蓋遺跡公園をオープンした。ガイダンス施設を拠点に吹上・釜蓋遺跡応援団が中心となり、史跡の謎や魅力を発信している。上越市の歴史ストーリーの出発点としての役割を担っている。



② 地域の宝を子供たちへ
市指定文化財の「お諏訪さんの大ケヤキ」では、毎年地元町内会が、隣接する小学校の5年生と、ケヤキの施肥活動を行っている。「今年も大ケヤキが元気なのは、今の6年生のおかげだよ」などと言葉をかけながら、地域の人たちが自分の言葉で地域の歴史文化を語る様子が見られる。このような活動が、指定の有無に関わらず市内で行われている。



③ 市民協働の春日山城跡の活動
中核的文化財のうち、中世の「春日山城跡」では、春日山城跡保存整備促進協議会をはじめ、多くの市民の方々が、「謙信公の春日山」を後世に継承するため、環境整備活動等に取り組んでいる。活動には地元の小中学生も参加し、構想で目標とする「文化財とともに文化財を守る人及び地域を育む」取組みが、地域の方の手で行われている。





佐渡市【新潟県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：55,859人 ■ 面積：855km²
■ 担当課：佐渡市世界遺産推進課（平成30年3月現在）



日本海に浮かぶ佐渡島は、金銀山に関連する遺跡や寺社等の建造物、伝統芸能など多種多様な歴史文化資源が島内全域にわたって分布している。広大な面積を有する佐渡は、変化に富む自然豊かな島の中で独自の文化が育まれてきた。市町村合併により平成16年に一島一市となった佐渡市では、島全体の歴史文化に関するグランドデザインを構築するため、基本構想を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

豊かな自然・生態系、文化の伝播、日本の縮図、
交流・交易、金銀山による繁栄

課題

- ・ 佐渡独自の保護の仕組みづくり
- ・ 住民との連携による保存管理体制づくり
- ・ 効果を実感できる事業推進づくり

保存活用方針

- ・ 歴史文化を次世代へ継承する
- ・ 地域が主体となり、守り育てる
- ・ 歴史文化資源を活かし交流活動を成熟させる

保存活用のための取り組み

歴史文化資源の総合目録づくり

市内に散在している膨大な歴史文化資源は、佐渡の歴史と文化の特色を伝えるうえで貴重である。これらの消滅や散逸を防ぐリストの作成・整理作業は、基礎的な作業として不可欠であり、継続的に取り組むことが必要である。



文化財指定等の推進

市内の指定文化財等の総数は、現在400件を超える。しかしながら、歴史的・文化的価値を有する未指定の文化財は、市内各所にまだ数多く存在していることから、今後も文化財の指定等を進め、文化財の保護を図ることが必要である。



人材の育成

市民自らが歴史文化を学び、郷土を愛する心を養うためには、郷土の魅力を発信する人材の育成や情報の発信等を行い、歴史文化の掘り起こしをさらに推進する必要がある。児童生徒による「佐渡学」の実践や来訪者に対する案内ガイド育成等の充実が必要である。



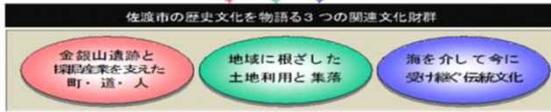
現地ガイダンスの充実

文化財に関する情報を市民や来訪者に円滑に伝えるためには、現地における適切な仕組みの充実が求められる。拠点となる博物館・資料館以外にも知的好奇心を誘うような現地案内看板の設置やインフォメーション機能の強化が必要である。



関連文化財群

時期区分	おもなことから	テーマとの結びつき	歴史文化資源の例
原始・弥生	小本半島に迫るくらしの痕跡 東北・北陸・関東などとの交流 国中甲斐へ展開する稲作農耕文化 玉作工人集団の活躍(玉作文化)	・ 磨製石器や土器等の遺物 ・ 低湿地の水田化と築堤地の高野原形成 ・ 山脈と東北との交流	長春ウチノ遺跡、新島山岡の遺跡 藤原山遺跡(土器)・神子山(古銅器) 惣持土器遺跡、二反土器遺跡、セコノ川河原の遺跡等
古墳・飛鳥	製塩の島 海岸段丘や山中にみえる古墳の築造	・ 海から山まで続く長く続く土砂沖積 ・ 製塩、製鉄など技術的発展のゆかり	佐渡玉作遺跡、国中甲斐第一帯二子帯の 稲作遺跡、製鉄所遺跡等
奈良	北陸最大の須恵器の産地	・ 青森・富山の日本海沿岸各地の出土	小川原須恵器遺跡
平安	佐渡国府・佐渡国分寺の成立 漂流の島 平安初期起源の寺院群の分布 『今昔物語』の砂金採取の説話	・ 国中甲斐・小本半島を中心とする大規模開拓の過程、文化の移入	国府跡(佐渡国府跡)、国分寺跡等 公事村・崎から国中甲斐への道、佐渡国分寺 遺跡跡跡中、長谷寺、深木寺、長安寺、 国分寺など大規模開拓の遺跡、平安初期の 国分寺跡(山崎山遺跡)・国分寺跡
鎌倉	守護代の米田と東国文化の移入		ノボリ宮(香月町)、三浦氏神社等
中世	小佐渡山間部の開発 流人たちの足跡と京文化の移入 中世流人の支え(扇屋跡と城下町) 上杉景勝佐渡攻めと金銀山開発		六石、牧野、風止めの土佐氏遺跡 扇屋跡(大庭園等)伝説地、扇屋跡(北沢の扇屋跡、 行儀の扇屋跡)等
江戸	相川金銀山の開発 鉱山都市相川の誕生 相川往還の整備と遠町・町場 食料・物資供給源の確保 北前船交易と交易品の生産 各地から持ち込まれた町人文化 庶民に浸透する能・歌舞伎 集落に息づく神奉・墓参	・ 町奉行・町人・農民の生活 ・ 専門職の発展 ・ 各地からの移住 ・ 金銀山の開発が集落形成の原動力	相川(金銀山遺跡)、扇屋跡(町場)、扇屋跡、 扇屋跡(町場) 上杉往還(扇屋跡)、扇屋跡(町場) 大工町、扇屋跡(町場)の町場跡 住居、一里塚、石段等 相川、小本、扇屋跡(町場)の町場跡、 扇屋跡(町場)、扇屋跡(町場)等
近世	相川金銀山の開発 鉱山都市相川の誕生 相川往還の整備と遠町・町場 食料・物資供給源の確保 北前船交易と交易品の生産 各地から持ち込まれた町人文化 庶民に浸透する能・歌舞伎 集落に息づく神奉・墓参		相川(金銀山遺跡)、扇屋跡(町場)、扇屋跡、 扇屋跡(町場) 上杉往還(扇屋跡)、扇屋跡(町場) 大工町、扇屋跡(町場)の町場跡 住居、一里塚、石段等 相川、小本、扇屋跡(町場)の町場跡、 扇屋跡(町場)、扇屋跡(町場)等
近・現代	伝統産業・伝統工芸の振興 佐渡金銀山の近代化と国策 交通網整備と新潟航路への集約 佐渡観光の開発と宣伝活動	・ 扇屋跡(町場)跡、北沢町の扇屋跡 小本、外海町の扇屋跡、扇屋跡(町場) 扇屋跡(町場)、扇屋跡(町場)等	扇屋跡(町場)、扇屋跡(町場)、扇屋跡(町場)等 近代化遺産群(大工町の町場跡、大工町跡)など の歴史遺産(扇屋跡(町場)跡)



魅力ある地域の歴史や文化を育成するためには、文化財が生み出された背景を理解し、多種多様な文化財同士の関連性を見出す取り組みが重要となる。これまで行われてきた調査研究の成果や市民が守り伝えてきた数々の保護活動をもとに、文化財相互の関連性によって生み出された、佐渡固有の歴史文化を物語る一定のまとまりを関連文化財群として設定した。

ストーリー

- ① 金銀山遺跡と採掘産業を支えた町・道・人
- ② 地域に根ざした土地利用と集落
- ③ 海を介して今に受け継ぐ伝統文化

中部地方

策定後の成果 (見込まれる効果)

① **調査・研究活動の推進**
新潟県と佐渡市では、世界文化遺産登録を目指しているところ、平成22年に「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」が世界遺産の国内暫定一覧表に記載された。約400年にわたる遺跡や鉱山関連施設が相川地区を中心に今も残されており、近年は史跡や建造物指定、重要文化的景観の選定などによって、文化財の保存と活用を図っている。



② **市民活動の拡充**
世界文化遺産の登録運動を中心に市民活動が展開されており、市民活動として、金の道ウォークなど各種イベントの開催やガイド養成など、地域の盛り上げや受け入れ態勢の拡充に向けて活動している。これまでの継続的な取り組みにより、活動を応援する団体・個人は、年々増加しており、官民が一体となった活動が展開されている。



③ **歴史的風致維持向上計画の策定**
市民の歴史文化に関する関心の高まりのもと、地域の歴史的風致の維持向上を図るため、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(通称：歴史まちづくり法)」に基づき、佐渡市歴史的風致維持向上計画の策定に取り組んでいる。今後は、策定のための協議会を立ち上げ、歴史を活かしたまちづくりを展開していく予定である。





高岡市【富山県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：172,542人 ■面積：210km²
■担当課：高岡市教育委員会生涯学習・文化財課（平成30年3月現在）



文化財の保存・活用を通して、歴史や風土を学び、ものづくり文化をさらに洗練していくことを目指す。また、市民一人ひとりが高岡市の「人・ものづくり・文化」を担っているという意識を高めていくことを通して、市民が郷土に対する誇りを持ち、ものづくりの結晶が輝くまちを実現していくことを将来像とする。

5 歴史文化を表す つのキーワード

加賀前田家ゆかりの町民文化、金工・漆工の工芸技術、
ユネスコ無形文化財、国宝寺院、非戦災都市

課題

- ・空き家の増加
- ・銅器、漆器等工芸技術の後継者不足

保存活用方針

- ・文化財と周辺環境の一体的な保全
- ・市民活動支援の充実と連携体制の整備

保存活用のための取り組み

街道・街路や水辺空間をつなぐ 歴史的界隈の回復

かつて高岡の城下町の動脈として、町の賑わいや生活の中心的役割を担っていた街道・街路や河川・用水、更にはその周辺環境を整備することによって、歴史的界隈の一体性を感じられる空間の回復を図る。



地域に根差した伝統産業とその 技術・景観の継承

西山丘陵の日当たりの悪い山裾等においてスゲの栽培が行われ、そのスゲを利用した菅笠づくりが地域に根差した伝統産業として継承されており、これらの技術と景観を一体的に保存・継承していく。



伏木外港の開発と歴史的街区の 保存・活用

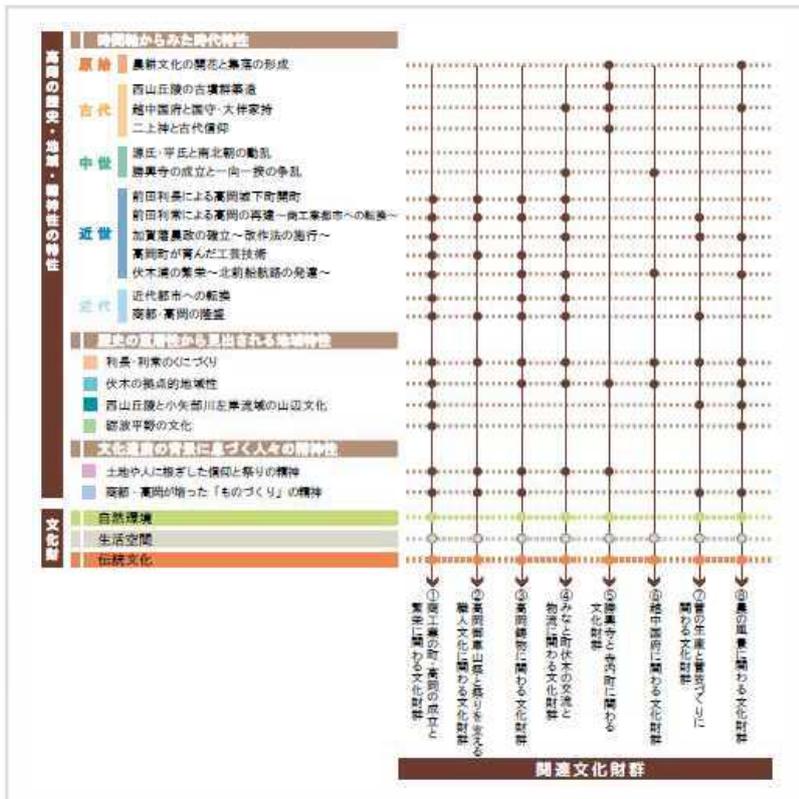
特定重要港湾伏木・富山港の港湾整備にあわせみなと町伏木に良好に残る歴史的街区の保存・継承と伏木曳山祭など祭礼・年中行事の一体的な活用を図る。



主要な文化財の周辺環境・眺望 の保全

文化財の周辺環境・眺望が、文化財の価値を構成する重要な要素であることを認識し、市街地の開発との調和を図りながら眺望景観規制等、一定のルールづくりなどの対策を講ずることにより、周辺環境の保全を図る。

関連文化財群



これまで個別に認識していた文化財をストーリーで結ばれた総体としてとらえることによって、高岡の歴史や風土、文化財をよりわかりやすく理解し、その魅力を多くの人々に伝えていくことを目指す、“高岡らしさ”の象徴として関連文化財群を設定する。

ストーリー

- ① 商工業の町・高岡の成立と繁栄
- ② 高岡御車山祭と祭を支える職人文化
- ③ 高岡鋳物の始まりと高岡銅器の隆盛
- ④ みなと町伏木の交流と物流
- ⑤ 勝興寺の繁栄と寺内町の形成
- ⑥ 大伴家持と越中国府
- ⑦ 菅の生産と菅笠づくり
- ⑧ アズマダチ民家にみる農の風景

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① **歴史・文化のまちづくりの明確化**
従来の個々の文化財の保存という「点」の取り組みから、総合計画の柱の一つとしての位置づけや歴史まちづくり計画の実践といった「面」としての取り組みにステップアップする基礎となった。



② **日本遺産など新たな価値の創出**
関連文化財群としての整理を行うことにより、そのストーリーが日本遺産の認定の基となったほか、文化財とその周辺環境の整備が、高岡御車山の御車山行事のユネスコ無形文化遺産登録といった新たな価値の創出につながった。



③ **市民活動の活性化**
伝建地区など従来から取り組まれている文化財の保存・活用の活動に加え、景観形成のための活動や観光ボランティアといった市民活動が徐々に盛り上がり、団体同士のネットワークの構築も進んできている。





金沢市【石川県】

歴史遺産保存活用マスタープラン



■ 策定年月：平成21年3月 ■ 人口：464,427人 ■ 面積：469km²
 ■ 担当課：金沢市文化スポーツ局文化財保護課（平成30年3月現在）

金沢市歴史遺産保存マスタープラン（歴史文化基本構想）は、金沢市の個性を示す都市のなりたちと歴史遺産の現状を把握し、それらの歴史的変遷と独自性・関連性に基づき価値を明らかにし、その保存・活用のための方針と方策を示すことを目的として策定した。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

城下町の都市構造、用水群と庭園群、
伝統文化、伝統工芸、伝統芸能

課題

- ・ 歴史遺産の物語の設定
- ・ 歴史遺産の多角的理解
- ・ 地域に根ざした歴史遺産の保存活用に関する研究

保存活用方針

- ・ 多様な歴史遺産の保存活用を通して「金沢らしさ」を際立たせる
- ・ 各活動主体の情報を共有し、協働で保存・活用に取り組む

保存活用のための取り組み

文化財保護と保存管理の推進

文化財の指定・選定・登録を進めるとともにその保存管理を適切に行う。また、多種多様な歴史遺産の価値に対応するため、各歴史遺産の本質的価値を確実に守り、活用していくための保存活用計画を順次策定する。



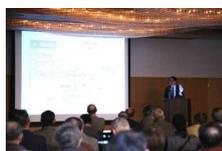
保存整備・活用事業の実施

歴史遺産に身近に接する機会を増やすことにより、市民の歴史遺産に対する関心を高めていく。また、歴史遺産の本質的価値や魅力を的確に分かりやすく伝えるために、案内解説、体験活動（ソフト）と施設整備（ハード）の総合的な充実を図る。



文化財保護に携わる人材の育成

歴史遺産に関する学習機会を提供し、地域学習を進めることにより、金沢に根ざした郷土を愛する人づくりを行う。また、歴史遺産の保存活用に関わる専門的人材の育成を図るとともに、その活動を支援する。

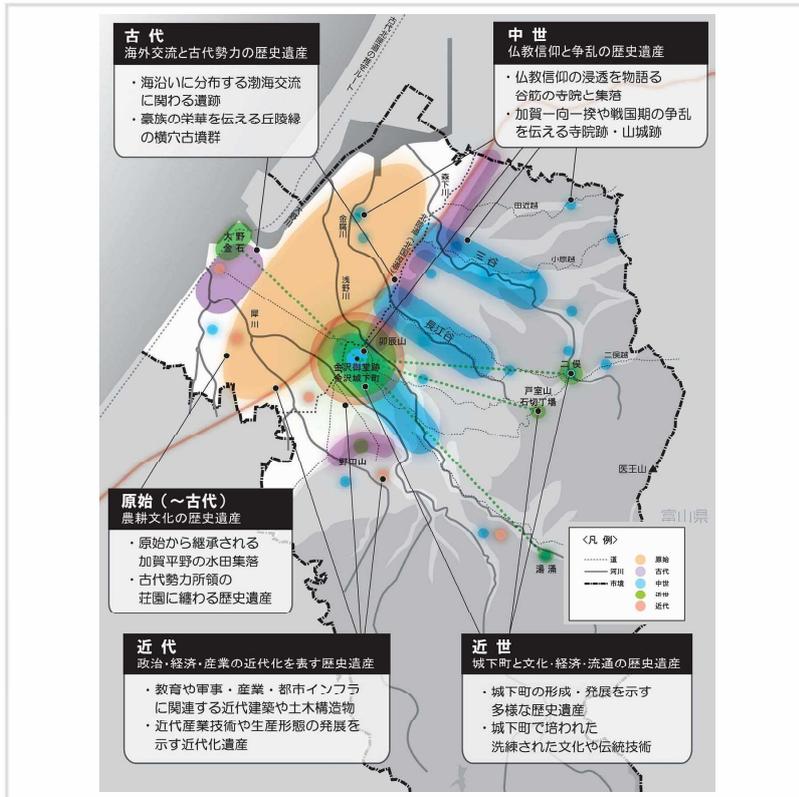


文化財保存活用関連情報の積極的な発信

インターネットや書籍等を活用し、歴史遺産に対する適切な情報を発信する。また、歴史遺産に関連するまちづくり活動や観光情報を提供することにより、歴史学習や地域活動の円滑化を図るとともに歴史都市金沢を国内外に広く発信する。



関連文化財群



個々の歴史遺産が持つ規模の大小や有形・無形といった性質や時代別特性、地域別特性などを踏まえ、金沢独特の文化や歴史に基づいたテーマやストーリーに基づく関連文化財群を設定した。旧金沢城下町を主たる対象として設定した関連文化財群のテーマは7項目とし、金沢市域全体を対象として設定した関連文化財群は6項目とした。その主なものは以下のとおりである。

ストーリー

- ① 旧金沢城下町の用水と関わる庭園群
- ② 旧商人町の歴史的界限と遺産群
- ③ 金沢の茶の湯文化に関わる遺産群
- ④ 金沢の能楽文化に関わる遺産群
- ⑤ 金沢町家の変遷を示す建築物群
- ⑥ 金沢の近代化を示す歴史遺産
- ⑦ 古代祭祀・信仰に関わる遺産群
- ⑧ 加賀一向一揆に関わる遺産群
- ⑨ 戸室石の採石と利用に関する遺産群
- ⑩ 湊町の交易・物流に関わる遺産群

策定後の成果（見込まれる効果）

① 新たな文化財の掘り起こし

建造物、町並みなどを中心に調査が進み、辰巳用水附土清水塩硝蔵跡、末浄水場園地などの国記念物の指定、それらの保存活用計画が策定されたほか、縁付金箔製造が選定保存技術に選定されるなど文化財保護の取組が積極的になされている。



② 文化財の面的保護の実践

「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」の重要文化的景観選定のほか、卯辰山麓、寺町台重要伝統的建造物群保存地区の選定、「加越国境城跡群及び道」の国史跡指定など、ストーリーを持った文化財群の面的指定が促進されている。



③ 市民と協働した周知・啓発活動

NPO法人などの民間団体や地域住民と連携することにより、歴史遺産活用の可能性が大きく広がることが期待される。市内にある文化財の一斉公開を行う「金沢歴史遺産探訪月間」を毎年開催し好評を得ているほか、文化財ボランティア「うめばちの会」主催の探訪会や史跡清掃など、市民と協働した文化財保護の体制づくりを進めている。





加賀市【石川県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：67,571人 ■面積：306km²
■担当課：加賀市教育委員会事務局文化保護課（平成30年3月現在）



「加賀市歴史文化基本構想」は、加賀市に継承された自然、歴史、文化、そして暮らしを伝える様々な所産を「歴史文化資産」として見つめ直し、市民のみなさんの「ふるさと」への誇りと愛着を深めていただくことに役立て、市民のみなさんに支えられた新たなまちづくりに繋げていくことを目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

温泉文化、平成版 加賀江沼志稿、
北前船、大聖寺十万石文化、ものづくり

課題

- ・市民や来訪者への「加賀らしさ」の普及啓発を促すこと
- ・魅力を高める「調査・研究等」の活動を展開すること

保存活用方針

- ・調査・研究等の推進
- ・普及啓発の充実
- ・地域づくりの推進

保存活用のための取り組み

調査・研究等の推進

歴史文化遺産の価値を一層深めるための調査・研究・記録活動を推進する。これにより、資産の学術的価値を明らかにすることで、必要に応じて文化財指定等の保護に繋げる。



「地域づくり」活動支援の充実

保存活用に関連する行政の諸施策や市民をはじめとする民間の諸活動が情報共有し、相互に協力することのできる体制の充実を図るとともに、地域の共同体組織の結束を強めることを目指し、情報提供をはじめとした積極的な支援に努める。



暮らしや産業に基づく技術を継承する人材の育成

伝統的な暮らし（炭焼き、伝統漁法）や産業（山中塗、九谷焼）に基づく技術は、その技術保有者の高齢化等を背景として急速に衰微しつつある。これらの文化技術の継承を図るため、専門家による研修を開催する等、必要な対策を実施する。

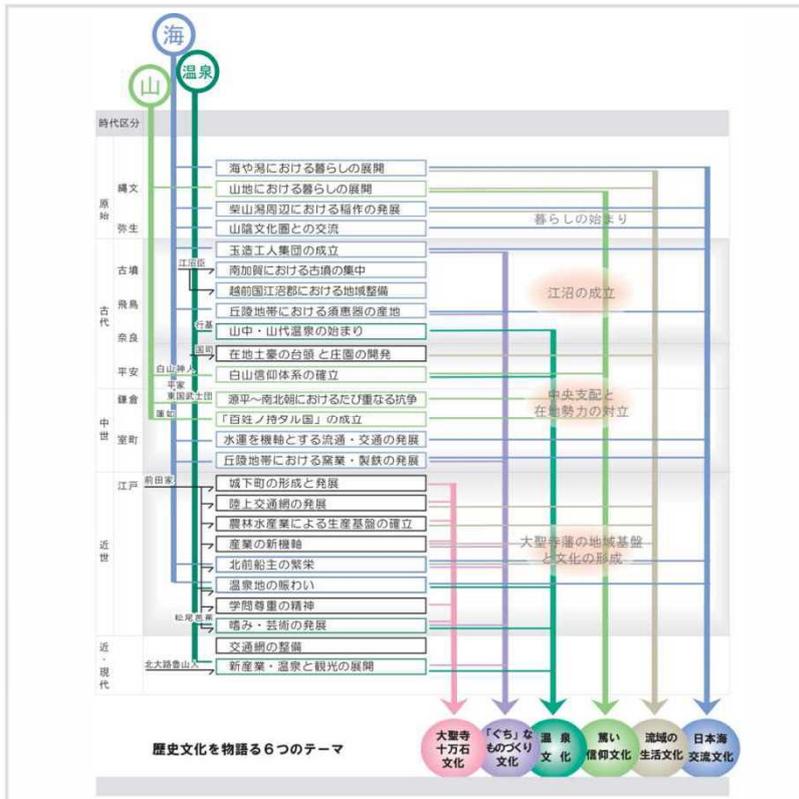


歴史文化資産と一体的な風致や景観の継承

歴史文化資産と周辺環境が一体的に織り成す風致や景観の継承を図る。景観計画等の計画と連携し、必要な規制の検討を行うとともに、保存活用に必要な整備等を図る。



関連文化財群



「加賀市らしさ」を物語るテーマは、多様で豊かな自然に依拠し、歴史の中で発生と廃絶を繰り返しながらも今日に継承されている個性を6項目とした。文化財保護措置の有無や種別を問わず、歴史文化遺産と各テーマ毎に関連文化財群とした。その主なものは以下のとおりである。

ストーリー

- ① 白山を基層とする加賀門徒の「篤い信仰文化」
- ② 北前船の繁栄をもたらした「日本海交流文化」
- ③ 近世の領国経営と多様な嗜みをもたらした「大聖寺十萬石文化」
- ④ 「総湯」の伝統と「もてなし」の心を継承する温泉文化
- ⑤ 交流と伝統が生み出した「ぐち」なもののづくり文化
- ⑥ 個性豊かな「大聖寺川・動橋川流域の生活文化」

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① 北前船文化の日本遺産認定
北前船の歴史を学ぶ市民向けの連続講座を開催し、加賀市特有の歴史遺産の意義を再認識、再確認する機会とした。また、寄港地に残る、加賀市発祥の「九谷焼」を集めた特別展の開催や地元でのイベント、町並みガイドツアーなど日本遺産認定をきっかけに、より縦断的な事業を開催し、対外的な情報発信も活発になっている。



② 「能のまち」構想による取組
「武家と町民」それぞれの文化が融合してから現在の「加賀市らしさ」に繋がっている。この「加賀市らしさ」という特有の形態は、これまで継承され続けている「能楽」が最たるものである。能楽の題材としても豊富なこの地で「能のまち」としての構想を基盤に、伝統の普及・文化振興として講演会や継承者育成を行っており、参画者が増加しつつある。



③ 武家文化の復興
藩政期に形成されたが、現在では継承されていない「古儀茶道藪内流」の復興をはかっている。平成29年度に加賀市出身の藪内流10代家元藪内竹翠没後100年の顕彰茶会を開催し、郷土が生んだ歴史的人物の再評価を行った。また、講習会や発表会、体験会を通して、市民や中高生たちに地域の歴史文化、伝統文化の周知を行いながら継承されるように働きかけている。





小浜市・若狭町【福井県】 歴史文化基本構想



■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：29,672人 ■ 面積：233km²
■ 担当課：小浜市委員会文化課（平成30年3月現在） ※以上小浜市情報

若狭湾に抱かれた小浜市は、海山里が一体となった自然豊かな地で、都の天皇・貴族家に食材を供給する「御食国」の歴史をもち、海と都をつなぐ文化交流の拠点であった。この輝かしい歴史を未来へつなぐため、「御食国若狭の成立と発展」「新たなる『御食国若狭』の創造へ」をテーマに、「食文化と民俗行事」を基軸として歴史文化の保存継承と活用を進める。

5 歴史文化を表す つのキーワード

人と自然との共生、御食国若狭、
神仏習合の社寺、鯖街道、小浜城下町

課題

- ・ 歴史文化保存活用区域と関連文化財群区域の不一致
- ・ 歴史まちづくり法の適用困難な関連文化財群の存在
- ・ 文化財の保存と活用にかかる所管が行政内で分離

保存活用方針

- ・ 地域資源の掘り起こしと未指定文化財の詳細調査
- ・ 文化財リストの整備と文化財の定期的な状況把握
- ・ 文化財災害危険マップの作成
- ・ 歴史文化基本構想の普及啓発と文化財活用

保存活用のための取り組み

保存修理事業計画・防災施設事業計画

地域生活に根ざした「食文化と伝統行事」の調査・指定を住民・専門家と協働で推進している。地域の核となる文化財である重伝建地区「小浜西組」では保存管理・防災事業を推進。



ストーリーにあわせた活用事業と施設整備

「まちの駅」（小浜市芝居小屋「旭座」）など、文化財周遊・住民啓発の拠点となる文化財を整備し、あわせて文化財めぐりの看板を整備。民俗文化財公開と旭座幕の内弁当による食との一体発信と活用を推進。



「食と民俗行事」を基軸とした普及啓発事業

住民団体と有機的に連携しながら、「食」に注目し、四季を意識した事業を旭座や御食国若狭おばま食文化館で展開している。また食に関わる伝統産業の復興も実施・支援している。

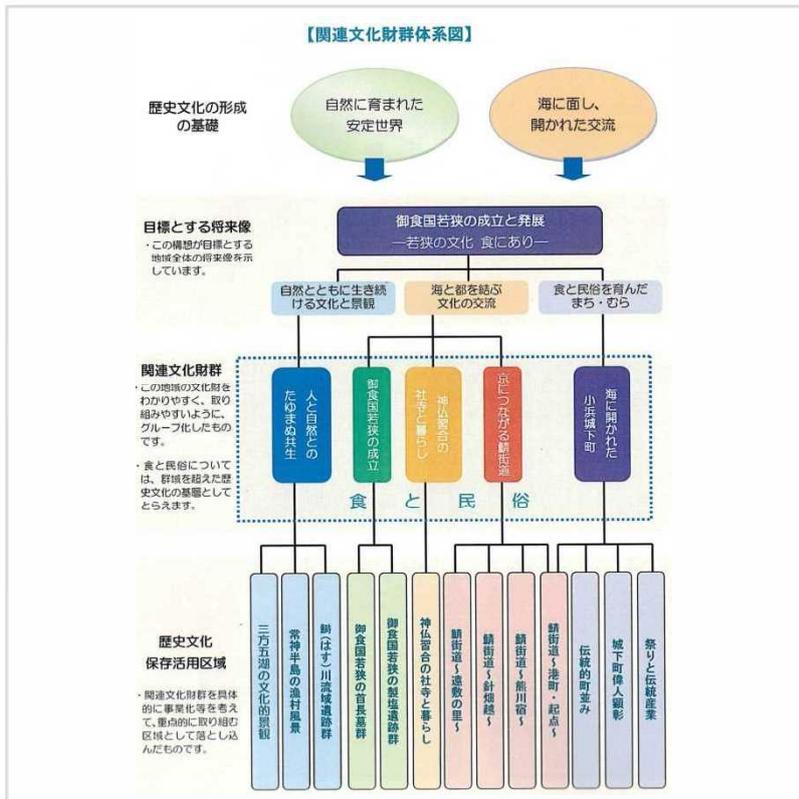


次世代を担う人材の育成

テキストによる子ども語り部の育成を推進しており、御食国若狭おばま食文化館ではキッズキッチンで食文化の伝承に取り組む。各小学校では鯖街道を踏破する鯖街道体験ウォーキングを実施。



関連文化財群



当市は、地方都市としては稀な、多様な多層な地域資源を持つ。その根底の「自然に育まれた安定世界」と「海に面し開かれた交流」の二つの要素が欠けることなく現在に引き継がれている。それぞれの関連文化財群は、この二要素をわかりやすく示す豊かな「食と民俗」により、住民に近い、親しみやすい文化財群として位置づけることによって、保存活用を推進していく計画としている

ストーリー

- ① 人と自然とのたゆまぬ共生
- ② 御食国若狭の成立 ～首長墓群～
- ③ 御食国若狭の成立 ～製塩遺跡群～
- ④ 神仏習合の社寺と暮らし
- ⑤ 鯖街道 ～遠敷の里～
- ⑥ 鯖街道 ～針畑越～
- ⑦ 鯖街道 ～熊川宿～
- ⑧ 海に開かれた小浜城下町～町並み～
- ⑨ 海に開かれた小浜城下町～偉人～
- ⑩ 海に開かれた小浜城下町～祭り～

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① 日本遺産等によるさらなる活用
地域の特質を地域全体で把握し、活用を模索していく中で、日本遺産「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～」認定の契機となった。また、民俗文化財・食の調査による保存継承を進める中で、食文化の活用や提供・民俗行事の積極的な公開など、地域文化に誇りを持ち、活用につなげる道筋となる。



② 産業界への波及
「保存から活用へ」という大きな流れの中、その理念を住民との協働作業により実施することによって「保存」の大切さと「活用」の必要性を共有できる。鯖街道の「鯖」に着目した歴史ブランドを市民と共有して鯖養殖、鯖商品の開発、鯖街道トレッキングなどを実施している。



③ 研究フィールドから活用へ
計画策定以後も、自然・人文系を問わず、大学等の研究フィールドとして注目され、基本構想のノウハウを活かした住民との協働研究が進められている。一方、行政は、専門家との協働により文化財保存の専門意識を蓄積。また、研究成果と食の体験を融合させた「御食国アカデミー」を体験・スタディツアーとして商品化する事業が開始されている。





小浜市・若狭町【福井県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：15,072人 ■面積：179km²
■担当課：若狭町歴史文化課（平成30年3月現在）※以上若狭町情報



隣接する小浜市・若狭町共同の歴史文化基本構想として「御食国若狭の継承、そして発展－若狭の文化食にあり－」を策定した。多種多様な形態の関連文化財群を5つの縦軸となるテーマに分類し、「多様な自然と京との交流が育んだゆたかな食文化」と「津々浦々に残る民俗行事」という2つの横軸で整理した。この全国でも稀有な特徴を活かし、歴史文化の継承と発展を目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

自然、交流、海、食、民俗

課題

- ・歴史文化保存活用区域と関連文化財群区域の部分的な不一致
- ・歴史まちづくり法の適用困難な関連文化財群の存在
- ・文化財の保存と活用にかかる所管が行政内で分離

保存活用方針

- ・地域資源の掘り起こしと未指定文化財の詳細調査
- ・文化財リストの整備と文化財の定期的な状況把握
- ・文化財災害危険マップの作成
- ・歴史文化基本構想の普及啓発と文化財活用

保存活用のための取り組み

保存修理事業

- ・住民協働の文化財調査と文化財指定の推進
- ・若狭を代表する広域首長墓の公有化をすすめ、土地所有者と住民、学識経験者と行政の協働により、ここ若狭ならではの手法を模索して整備を推進
- ・熊川宿における伝統的建造物群保存計画の充実等



防災整備事業

- ・防災体制の整備（特に洪水対策、山地災害、震災等）
- ・熊川宿の防災まちづくり計画の推進
- ・文化財を有する他集落での地域防災計画の推進等



活用施設事業

- ・「古墳の駅」を設け、若狭全体の古墳が巡れるようなコースを整備
- ・街道松を植え、各街道沿いの区による看板設置やポケットパーク化により保存活用を図る
- ・伝統産業保護継承施策の推進等
- ・熊川宿における空き家を活用したまちづくりの推進



普及啓発事業

- ・縄文博物館友の会「DOKIDOKI会」やNGOハスプロジェクト推進協議会など、住民団体と有機的連携を図っていく。特に食（食育）に着目した連携に配慮
- ・両市町のみならず、若狭一円の代表的古墳マップを作成
- ・広域連携（国内外）の推進等
- ・水月湖年縞の広域的な周知





韮崎市【山梨県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：32,014人 ■ 面積：143km²
■ 担当課：韮崎市教育委員会教育課（平成30年3月現在）



歴史文化資源の保存活用に係るマスタープランとして位置づけ、韮崎固有の歴史的環境を舞台として、暮らしやすく、誇りや愛着を持てる魅力的な韮崎となることを将来像とし、韮崎が育んできた歴史文化の尊重と、その保存活用による地域づくりの実現をめざすことを定めたもの。

5 歴史文化を表す つのキーワード

花開く原始古代、山の神々に守られた、武田氏を育んだ、
治水利水、人と物をつなぐ

課題

- ・ストーリーによる歴史文化資源の継承
- ・歴史文化自然的環境への関心と誇りの醸成

保存活用方針

- ・地域づくりの根幹となる、歴史文化資源の保存・活用・利活用のサイクルの構築
- ・歴史文化を尊重したストーリーに基づく歴史文化資源の保存活用

保存活用のための取り組み

〔仕組み作り〕文化財の指定・登録の推進

平成27年に本市の歴史文化の特徴である七里岩（一部）が名勝地として登録文化財になった。登録に合わせて、現地に解説板の設置及びふるさと歴史再発見ウォークの開催を実施。



〔気運作り〕ストーリーに基づくまちあるきの開催

基本構想策定以降、各地域または地域を超えたストーリーを作成し、ふるさと歴史再発見ウォークを定期的に開催。既に32のストーリーを作成し、図書館等への設置、地域公民館や観光客への出前講座等で活用。



〔仕組み作り〕仮称・武田の里遺産登録制度の導入

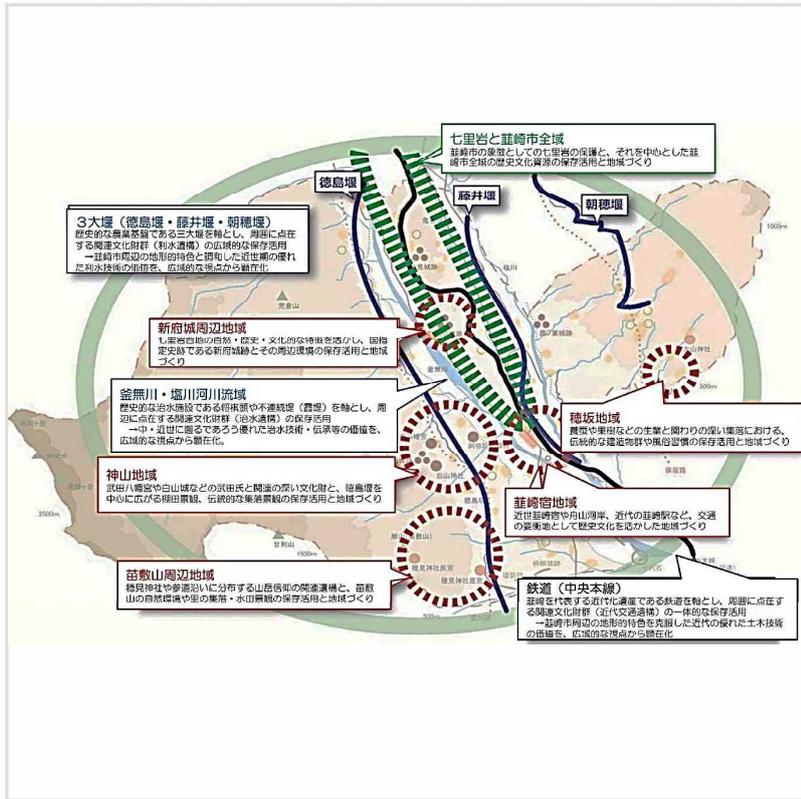
歴史文化に対する市民の関心を高め、その保存活用の気運を高めるために、文化財指定とは異なる、文化財の存在を確認することからはじまるような緩やかな保存・活用を視野にいれた市独自の登録制度を立ち上げ、「遺産台帳」の登録を進める予定。

〔担い手作り〕学校教育との連携

史跡への遠足、民俗資料館や偉人資料館などの文化財施設への校外学習や学校への出前講座を行なうことにより、個々の文化財の魅力のほか、文化財や周辺環境の重要性を学ぶ機会を創出。



関連文化財群



本市の自然地形を背景として、歴史文化の特性を象徴的に物語る6つのテーマ（話楽原始古代の葦崎、山の神々に守られた葦崎、武田氏を育んだ葦崎、治水利水の葦崎、人と物をつなぐ葦崎、人の営みの深い葦崎）を設定。これらのテーマが文化財として象徴的に表れている範囲を保存活用（推進）地域として設定。

ストーリー

- ① 葦崎らしい地形と歴史文化の舞台七里岩
- ② 葦崎を潤す歴史的3大堰と水を治める堤防群
- ③ 明治時代の近代化で推進された鉄道遺産群
- ④ 武田氏文化財と棚田風景の神山
- ⑤ 葦崎の地理的特性を活かした武田氏の新府城
- ⑥ 陸路・水運の拠点葦崎宿
- ⑦ 古代につながる里山の山岳信仰苗敷山

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① **文化財登録・民俗文化財への注目**
本市を特徴づける地形であるとともに、歴史文化の舞台として生き続けている七里岩が名勝地として登録文化財となった。このことにより、ありふれた景観の中に、本市の本質的価値を構成する文化財が存在することを改めて示すことができた。また、民話等民俗文化財に対する注目が集まってきた。



② **文化財に対する理解の深まり**
市内の歴史文化資源を総合的に把握し、歴史文化の特徴を読み解き、本市の骨格として次世代に継承することが、結果的に地域活性化、農業・観光振興、移住・定住化促進に結びつくものと見込まれる。本市らしさを構成する文化財の価値に対する理解の深化が認められる。



③ **官民協働による文化財の把握**
文化財を総合的に把握するには、官民協働が不可欠である。協働により、「文化財は人々の意識・無意識の中で継承・発展してきたものである」と認識され、「地域にとってかけがえのないものであり、魅力的なものである」と再認識するきっかけとなる。その結果、連携協力が促進され、地域力へと昇華されることが見込まれる。





松本市【長野県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年2月 ■ 人口：240,245人 ■ 面積：978km²
■ 担当課：松本市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



市内各地に豊かな文化財や多数の博物館施設を有する松本市は、平成12年に「松本まるごと博物館構想」を策定。市民が歴史や文化を通じて郷土に愛着や誇りを持ち、さらに観光面等での経済振興につながる魅力あるまちづくりを進めるため、平成25年から5年間をかけて市民が主体となって調査に取組み、「松本市歴史文化基本構想」を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

松本城と城館群、学びへの想い、
アルプスと近代登山発祥のまち、水のまち、民芸

課題

- ・ 地域の歴史文化に触れる機会創出
- ・ 社会環境に対応した文化財の保全
- ・ 関連文化財群への市民理解
- ・ 文化財の担い手の確保 等

保存活用方針

- ・ 地域の歴史文化の再認識
- ・ 文化財を活用したまちづくり拡大
- ・ 文化財の防犯・防災体制の強化
- ・ 文化財保存活用への財政支援 等

保存活用のための取り組み

「まつもと文化遺産」の認定と活用

設定した関連文化財群の中から、市民が主体となり継続的に活用できるものを「まつもと文化遺産」に認定し、支援していく。



市登録文化財制度の新設

松本市歴史的風致維持向上計画に位置付けた「松本市近代遺産」や、今回の調査で得られた文化財を保存活用するため、登録文化財制度を新設する。



関連文化財群の観光面での活用

165件の関連文化財群を設定し、松本を象徴する特色として「8つの魅力」をまとめた。この成果を元に、松本の魅力を感じられるような市内周遊ルートを設定し、観光振興につなげていく。

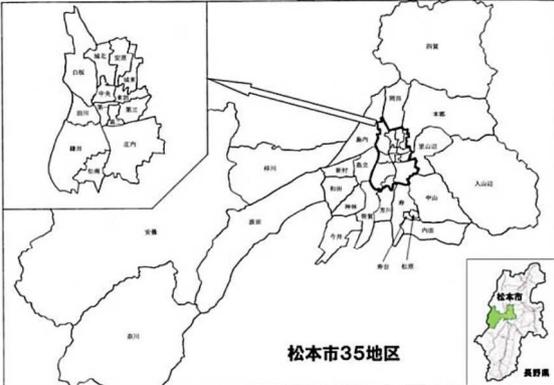


文化財に係る固定資産税軽減制度の整備

国指定文化財には固定資産税の軽減措置が適用されるが、県・市指定文化財についても同様の軽減措置の適用を検討する。



関連文化財群



いろいろな「残したいもの」を探してみましょう！
たとえば・・・



まちなみ



お寺の絵馬



田圃



近所の神社



道端の石仏



印象的な風景



井戸



みんなでやる行事

※「これは！」と思ったら、①何が(名前・物) ②どこに(場所・地図) ③どんなふうに(写真) をとにかく記録！

みんなでたくさん持ち寄った文化財から、どんなテーマがあるか、話し合いながら整理

見つけたテーマが、地域の特色(=地域の魅力)のもとになるはず！

市内35地区の公民館を拠点に、市民が居住域の悉皆調査を実施、11,632件の文化財を把握し、165件の関連文化財群を設定した。これらを大(ストーリー①～⑩)・中・小の3つのテーマで分類し、整理したうえで、松本市を象徴する「8つの魅力」を抽出した(その内の5つを前頁のキーワードに掲載)。

ストーリー

- ① 原始・古代の松本
- ② 松本平の城郭群と館跡
- ③ 内陸地の人々の往来と物流
- ④ 松本城とその時代
- ⑤ 近代化の歩み
- ⑥ 松本の自然
- ⑦ 地域に根差した生業
- ⑧ 人々の暮らしと伝統文化
- ⑨ 松本ゆかりの先駆者
- ⑩ 三ガク都

策定後の成果 (見込まれる効果)

① 地域に愛着や誇りを持つ

“いろいろな「残したいもの」を探してみましょう！”を合言葉に、今回、市民の皆さんが主体となり地域の文化財調査に携わっていただいた。そうした取組みが地域の歴史や文化的特性を総体的に理解することにつながり、自ら住む地域により一層の愛着や誇りを持つようになった。



② 協力支援団体の育成

市民が居住する地域の文化財を調査するにあたり、市内35地区に調査体制が組織された。それぞれの地域の事情により成り立ち異なるが、今後も地域の文化財の保存活用に関わる活動が継続できるよう支援していく。



③ 歴史や文化を活かしたまちづくり

行政内の各部署が実施するあらゆる施策に対して、地域の歴史や文化の特性を反映させるよう積極的に働きかけるとともに、市民や関連団体と連携して地域を活性化し、観光や産業振興につながる魅力あるまちづくりを推進する。





高山市【岐阜県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成22年3月 ■ 人口：88,566人 ■ 面積：2,178km²
■ 担当課：高山市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



まちづくりの核の一つとして「歴史」を捉え、文化財を地域資源として活用する考え方が市政全体に波及する中で、文化財の持つ歴史的な価値を損なうことなく、「何を守り、何を活かすか」を市民全体が認識し、今後50年、100年先にも継承される文化財の保存活用のあり方を検証するとともに、各分野で展開される文化財を活用した施策に対する基本的な方針を定めるための計画。

5 歴史文化を表す つのキーワード

城下町高山の町人生活と祭礼、歴史街道
農山村集落、中世城館、飛騨の匠

課題

- ・文化財の継承の課題
- ・文化財の活用への課題

保存活用方針

- ・文化財の調査
- ・文化財の適切な保管・管理
- ・文化財の周辺環境の保全
- ・文化財の普及啓発 等

保存活用のための取り組み

文化財の調査

市街地—歴史街道—農山村・山林の枠組みで文化財を把握し、有形無形の文化財が一体となった空間ごとの調査を推進するとともに、市全体の中での各文化財の再評価を検討する。



文化財の適切な保管管理

地縁団体と連携して活動する市民活動団体や製作技術等を継承する人材の養成を図る。



文化財の周辺環境の保全

文化財を取り巻く山林や自然環境、新しい建造物などを含めた周辺環境を一体として保全を図る。

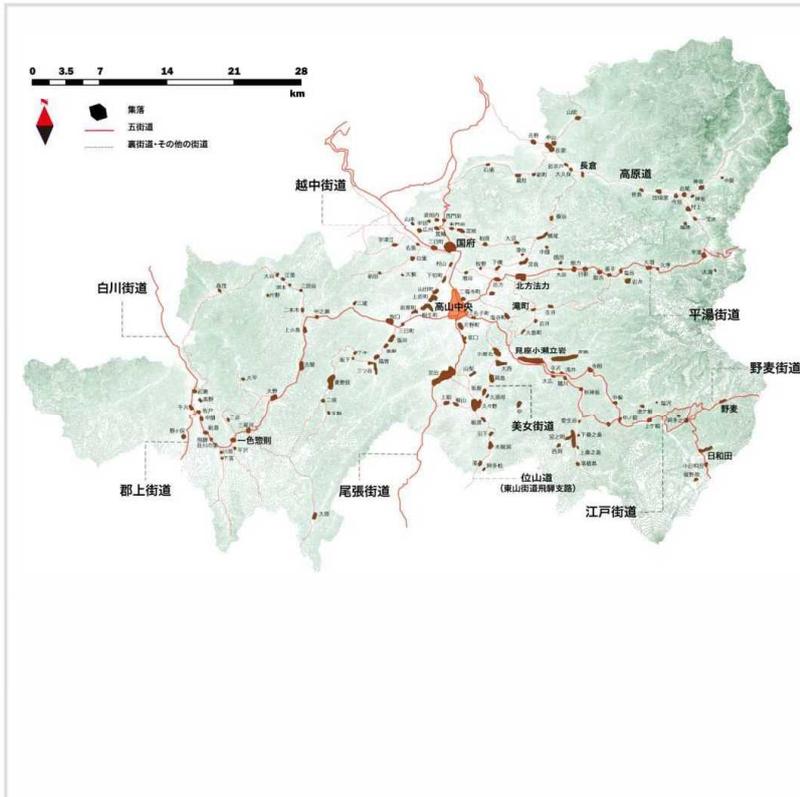


文化財の普及啓発

地域に愛着を持ち、住み続け、伝統文化を将来にわたり継承していく人材を育成するため、学校等の教育機関と連携して、市民への普及啓発に努める。



関連文化財群



地域の範囲や歴史的連続性など共通の事項（キーワード）で文化財及びその周辺環境を含めて評価し、一体となって歴史・文化を価値付けることのできる範囲（地理的範囲・ネットワークの両方を指す）を関連文化財群としている。地域全体を「市街地」「農山村」の枠組みで網羅し、「街道」でつなぎ、その状況が現代まで継承されていることを基本に設定した。

ストーリー

- ① 城下町高山の町人生活と祭礼
- ② 歴史街道
- ③ 農山村集落
- ④ 飛騨国の形成
- ⑤ 中世城館
- ⑥ 山岳信仰
- ⑦ 飛騨の匠
- ⑧ 城下町高山の近代化

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① 未指定文化財の保護
歴史文化基本構想の策定に引き続き、集落毎のテーマに基づいて住民が文化遺産を保護していくためのプラン作りを数箇所で行っている。今後はこのプランを市が認定、プランに位置づけられた具体的な事業を市が採択して支援していく仕組みづくりを考えていく。



② 市民の歴史文化への関心の高まり
歴史的風致維持向上計画の策定を平行して実施しており、歴史文化基本構想策定の効果とあまって歴史的建造物の保存や伝統文化継承の意識の向上など市民の歴史文化に対する興味がより高まったといえる。



③ 日本遺産認定を機に地域活性化
関連文化財群のひとつである「飛騨の匠」が、平成28年4月に「飛騨匠の技・こころー木とともに、今に引き継ぐ1300年ー」として「日本遺産」に認定され、これを機に郷土の文化財再評価の機運が高まってきており、日本遺産を活用した地域活性化の取り組みを行っている。





伊豆の国市【静岡県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成26年3月 ■ 人口：49,156人 ■ 面積：95km²
■ 担当課：伊豆の国市 教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



伊豆の国市には、北条氏邸跡(円成寺跡)や葦山反射炉など、6つの国指定史跡をはじめとする様々な歴史文化資源を有している。これら重層的に存在する歴史文化資源は、日本の歴史の転換点となるできごとと深く関わるものである。本構想では、歴史の流れと自然環境を軸に6つの関連文化財群を定め、それに基づいて3つの重点区域と4つの促進区域を設定している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

源頼朝、北条早雲、江川英龍、
武士の世の始まり、近代産業への飛躍

課題

- ・ 中心となる施設の整備
- ・ 調査研究の推進
- ・ 温泉やその他観光との連携
- ・ 体制整備と人材の確保

保存活用方針

- ・ 知る・学ぶ(調査・連携・教育)
- ・ 守る・高める(保存・管理・修復)
- ・ 活かす・広める(整備・情報発信・人材育成)

保存活用のための取り組み

葦山城跡総合調査の推進

戦国大名北条氏の拠点であり、堀や土塁などの遺構が良好な形で残っている葦山城跡について、将来的な国史跡指定を目指して、文献調査・発掘調査・地形測量・縄張調査等の総合調査を進めている。



ボランティアガイドの育成

国宝運慶作諸仏を所蔵する願成就院や、重要文化財江川家住宅、史跡葦山反射炉など、市内の豊富な歴史文化資源について、来訪者にわかりやすく紹介するため、研修会等を通じて、ボランティアガイドの育成を図っている。



葦山反射炉ガイダンスセンターの設置

平成27年7月に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として世界文化遺産に登録された史跡葦山反射炉に関する総合的なガイダンス施設として「葦山反射炉ガイダンスセンター」を整備し、平成28年12月にオープンした。

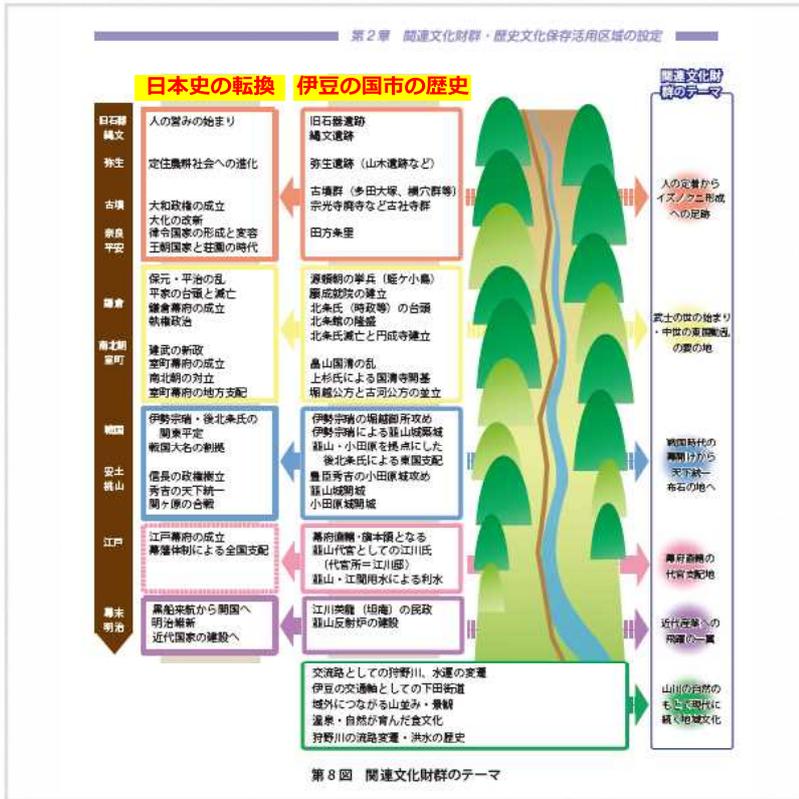


案内サインの整備

願成就院、重要文化財江川家住宅、史跡葦山反射炉など、来訪者が多数訪れる歴史文化資源に円滑にアクセスできるよう、案内サインの体系的な整備・充実に取り組んでいる。



関連文化財群



日本史上の転換期との関連に着目した「時代別テーマ」と、狩野川を軸とした自然環境に育まれた「時を超えるテーマ」に分けて、関連文化財群を設定した。

- ①人の定着からイズノクニ形成への足跡
- ②武士の世のはじまり・中世東国動乱の要の地
- ③戦国時代の幕開けから天下統一布石の地へ
- ④幕府直轄の代官支配地
- ⑤近代産業への飛躍の一翼
- ⑥山川の自然のもとで現代につづく地域文化

ストーリー

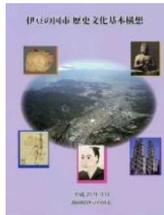
- ① 山木遺跡の農耕生活
- ② 古墳群や古寺社が伝える伊豆国成立
- ③ 源頼朝挙兵と鎌倉幕府成立
- ④ 鎌倉幕府執権北条氏の本拠地
- ⑤ 伊勢宗瑞(北条早雲)の堀越御所攻め
- ⑥ 豊臣秀吉の小田原攻めと葦山城
- ⑦ 葦山代官江川氏による地域支配
- ⑧ 江川英龍による葦山反射炉築造
- ⑨ 狩野川と下田街道がつなぐ人と物流
- ⑩ 伊豆長岡温泉と温泉文化

中部地方

策定後の成果 (見込まれる効果)

① **文化財保存活用マスタープラン**

総合計画などの上位計画や、他の様々な計画と関連しつつ、歴史文化基本構想は、市の文化財行政を進めていく上でのマスタープランとして位置づけられた。このことにより、市内の歴史文化資源を計画的に保存活用していくための方針が定まった。また、市のHPで公開しており、市民が市内の歴史文化資源について知るための一助となっている。



② **葦山反射炉整備基本計画策定**

史跡であり、世界文化遺産の構成資産となっている葦山反射炉について、管理保全の基本方針・方法を定めるとともに「明治日本の産業革命遺産」の顕著な普遍的価値に貢献する要素を保全するための法的・行政上の措置を示すことを目的として、平成29年7月に「葦山反射炉の保存・整備・活用に関する計画(史跡葦山反射炉整備基本計画)」が策定された。



③ **歴史的風致維持向上計画策定**

歴史文化基本構想により、市内の歴史文化資源が関連文化財群として把握することができた。それを受けて、さらに歴史文化資源の保存・活用を推進するとともに、まちづくりに活かしていくため、平成30年度の認定を目指して、歴史まちづくり法に基づく「伊豆の国市歴史的風致維持向上計画」の策定を進めている。





名古屋市【愛知県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成29年3月 ■人口：2,311,132人 ■面積：326km²
■担当課：名古屋市教育委員会事務局生涯学習部文化財保護室
(平成30年3月現在)



本市構想では、名古屋城下や熱田神宮周辺など「名古屋を代表する文化財」と市域全体に広がる「身近なまちの文化財」に分けて課題を整理した。前者の重要性は市の主要計画などでも取り上げられており、着実に名古屋らしい魅力を創出し、歴史観光につなげていくことを目指す一方、後者についても市民参加の調査体験等でその価値を明らかとし、活用につなげていくことを目指すこととした。

5 歴史文化を表す つのキーワード

庄内川、熱田と名古屋、名古屋城下町、
低地開発、モノづくり

課題

- ・市民の歴史イメージに偏りがある
- ・身近な文化財が認知されていない
- ・文化財を守る担い手が少ない
- ・指定文化財ですら知られていない

保存活用方針

- ・地域の文化財を知る
～新たな価値の発見・掘り出し～
- ・地域の文化財を未来へ伝える
- ・地域の文化財を活かす
～学びから発信へ～

保存活用のための取り組み

スタートアップシンポジウムを 開催し文化財の魅力発信

歴史文化基本構想の策定を記念したシンポジウムを名古屋の中心繁華街「栄地区」の中心にある会場で開催した。同日名古屋城で開催の「名古屋おもてなし武将隊」の演武時にもイベント周知を行い、幅広い人々になごやの文化財を知っていたいただく機会を持つことができた。



生涯学習センターなごや学講座 にて関連文化財群を設定

歴史文化基本構想を紹介する講座を、市内各区の生涯学習センターで開催する。講座では各区の歴史を紹介する一方で、区内でフィールドワークをおこない、区内の文化財を取り上げた関連文化財群の設定を目指す。



観光文化財アプリ 「なごや歴史探検」の開発公開

なごや歴史文化活用協議会の事業として、指定の有無に関わらず広く文化財を紹介する観光文化財アプリ「なごや歴史探検」を開発・公開し、身近なまちに残されている文化財の「見える化」を進めるとともに、観光資源として昇華させることを目指している。



民俗文化財の専門家による調査

市内に残されている民俗文化財の調査を進める一方、民俗行事を続けていくために不可欠な道具の修理の補助を行う。また適切な修理が行われるように、専門家による修理方法の検討・指導を行っている。





瀬戸市【愛知県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年2月 ■ 人口：130,047人 ■ 面積：111km²
■ 担当課：瀬戸市 交流活力部 文化課（平成30年3月現在）



瀬戸市は千年以上の窯業の歴史を持ち、「陶都」とも呼ばれる都市である。その背景には、窯業生産に適した豊かな自然資源や環境や、尾張・三河・美濃三国の境界地であるため各地の文化を取り入れてきた歴史などがある。こうした歴史や文化を示す市内の文化遺産を総合的に把握し、瀬戸市特有の風土も踏まえ、関連文化財群を8つのストーリーにまとめている。

5 歴史文化を表す つのキーワード

窯跡、陶器生産、磁器生産、
尾張・三河・美濃三国の境界、オオサンショウウオ

課題

- ・文化財、文化遺産が有する多様な価値の顕在化
- ・文化財・文化遺産を活かした地域の活性化
- ・地域の多様な主体の連携による保存・活用の推進

保存活用方針

- ・文化財・文化遺産の総合的把握と価値の共有化
- ・文化財・文化遺産の適切な保存・管理
- ・次世代への継承、防犯・防災対策
- ・魅力情報の発信、公開・活用の推進

保存活用のための取り組み

文化財・文化遺産の総合的把握 と価値の共有化

文化財把握のための調査・研究を実施するとともにそれを行うための専門職員の充実を図る。また、歴史文化データベースを構築し、その情報公開を積極的に行うほか、「まちめぐり」などによる文化財の特別公開を進めることにより、文化財の価値を共有化する。



文化財・文化遺産の適切な保存・管理

重要な文化財・文化遺産の保護・継承のため指定や登録を積極的に推進し、それらの現状と課題を把握することで保存活用計画を策定する。また、文化財所有者への啓発、保存・修理に対する支援の強化など、文化財の周辺環境を含めた保全を推進する。

次世代への継承、防犯・防災対策

市民が愛着を持って文化財の維持・管理に参加し、それを行政が支援する制度等のしくみづくりを推進するとともに、瀬戸市の歴史文化に関わる技術を継承する伝統技能者を育成する。また、文化財の防犯・防災体制の強化、地域との連携による防犯対策・耐震対策の推進を図る。

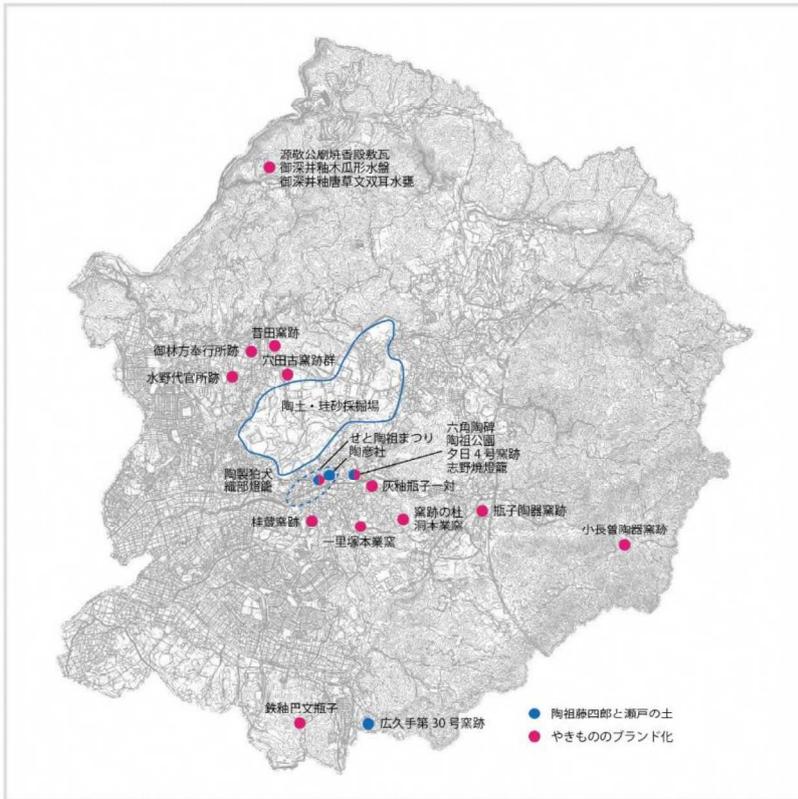


魅力情報の発信、公開・活用の推進

展示施設や案内板の設置、ガイドブックやガイドマップの作成などのほか、ボランティアガイドの育成やSNSの活用などにより、文化財の魅力情報の発信を図る。また、文化財をまちづくりの拠点施設として活用するための保存・修理を行い、公開活用を行う。



関連文化財群



瀬戸市の歴史文化の最大の特徴である「やきもの」を軸とし、地場産業としてだけでなく国内外における陶磁器文化を構成する要素と捉え、やきもの生産に係る歴史・文化遺産を5つのテーマに分けて関連文化財群としている。また、その背景となる街道、自然、祭りについてもそれぞれをテーマとする関連文化財群としている。

ストーリー

- ① 陶器のふるさと～せともの誕生～
- ② せともの産業革命～磁器生産～
- ③ 世界に羽ばたいたせともの
- ④ やきもののみちからCreative Cityへ
- ⑤ 職人文化とやきものが息づくまち
- ⑥ 街道と交流～三国の境～
- ⑦ 自然との共生～豊かな自然と再生～
- ⑧ 地域と祭り～伝統の継承と人々の交流～

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① **まちのブランディング**
「せともの」はやきもの代名詞となっているが、瀬戸市で作られていることが十分に知られていない。まちの知名度を高め、その魅力を効果的に発信することで国内外よりやきものに関心を持つ観光客を呼び込む。また、祭りや伝統的な行事の観光資源化を図り、何度も訪れたいような効果を見込む。



② **シビックプライドの醸成**
まちめぐりイベントなどへの参加を通じて市民が改めて市の歴史文化を知り、市民が瀬戸市に対して「誇り」や「愛着」を持ち、自分もこのまちを形成している一人であるという認識のもと、まちをよりよくしていくための取り組みに関わろうとする当事者意識＝シビックプライドの醸成を見込む。



③ **ものづくり文化の継承**
瀬戸市にはやきものに関わるツクリテをはじめ、ガラスや木工、デザインなどの幅広い分野で活動するツクリテが集まる土壌がある。瀬戸市の歴史文化の中核であるやきものを軸に、ものづくりの歴史を背景としたアートやクラフトのみちとしての個性を伸ばすことを見込む。





豊田市【愛知県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：424,760人 ■ 面積：918km²
■ 担当課：豊田市教育委員会 教育行政部 文化財課（平成30年3月現在）



豊田市は、昭和34年に挙母市から豊田市へと市名を変更して以来、たびたび合併を繰り返し、地域ごとに特色を持つ、多種多様な歴史文化が息づく都市となった。当市の歴史文化を、貴重な財産として、市民と共に計画的に保存・活用し、次世代に継承していくため、平成28～29年度にかけて、「豊田市歴史文化基本構想」として取りまとめた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

自然への多様な適応、松平家の発祥の地、塩の道、
自立自尊の文化、“ものづくり”をつづける

課題

- ・ 滅失の危機に瀕する文化財へ対応するための、緊急的な取組が多い
- ・ 長期的視点の、保存・活用の方針を市民と共有できていない

保存活用方針

- ・ 歴史文化の収集・保存・情報発信のための取組の推進
- ・ 市民と共に次世代へ継承していくための取組の推進

保存活用のための取り組み

文化財の情報・資料のデジタル化とデータベース化

歴史文化及びその資料・情報を収集・保存し、発信するための取組として、文化財の情報や資料のデジタル化（画像・映像）とデータベース化を推進する。また、市民共有のアーカイブとして、公開・活用できる基盤を整備していく。



博学連携・生涯学習を通して、文化財を身近な存在に

市内の学校を対象とした郷土学習スクールサポートや、ボランティアとして活動する「とよた歴史マイスター」が実施する自主活動などにおいて、関連文化財群とそのストーリーを地域の人々に発信していく。発信することによって、文化財を身近に感じてもらい、文化財保護の気運を高める。



郷土資料館の活動の充実と、新博物館の整備を推進

文化財や歴史文化を未来に継承する拠点として、郷土資料館の活動を充実し、新博物館の整備と、地域資料館・個別資料館の再構築を進める。新博物館については、基盤機能のみならず、博学連携・生涯学習などを推進するための諸機能を備えていく。

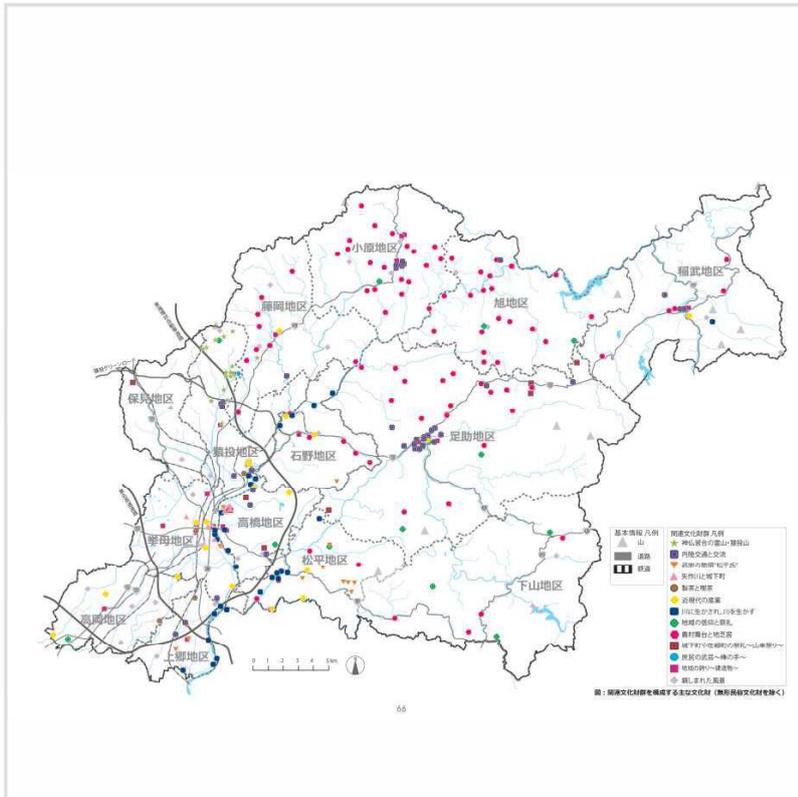


歴史文化を活用したまちづくりに資する取組を推進

各観光協会や地域住民との共働による、文化財を活かした観光メニューの開発などを連携して進める。また、地域の人々による地元の盛り上げの気運を高め、豊田市の歴史文化を地域振興などのまちづくりに効果的に活かしていくことを目指す。



関連文化財群



豊田市の歴史文化の特性を踏まえ、関連文化財群を13のテーマに整理した。関連する複数の文化財を、関連文化財群として捉え、一体的に保存・活用していくことで、個々の文化財の魅力を高めるとともに、効果的に価値発信をしていくことができる。

ストーリー

- ① 神仏習合の霊山・猿投山
- ② 内陸交通と交流
- ③ 武家の惣領“松平氏”
- ④ 矢作川と城下町
- ⑤ 製茶と喫茶
- ⑥ 近現代の産業
- ⑦ 川に生かされ、川を生かす
- ⑧ 地域の信仰と祭礼
- ⑨ 農村舞台と地芝居
- ⑩ 城下町や在郷町の祭礼～山車祭り～
他

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

① 豊田市の歴史文化の総括的把握
豊田市の歴史文化や、文化財等に関わる既存資料について把握・整理した上で、指定文化財以外の文化財の総括的な把握を目指した。また、資料収集や収集方針を定めた。今後も、継続して調査を進めることで、保存整備・公開活用に向けた基礎資料を作成していく。



② 関連文化財群の効果的な発信
豊田市の各地域の特性に応じて、相互に関連する文化財を整理し、関連文化財群としてテーマやストーリーを設定することができた。これによって、本市の歴史文化の価値を分かりやすく明確に発信していくことができる。今後、博学連携や生涯学習活動を通じて発信し、また、新博物館整備事業や地域資料館の再構築に反映していく。



③ 文化財に接する機会の創出
インターネットなどによる情報発信によって、市民や来訪者が地域の歴史・文化財に接する機会を増やし、文化財への関心を高めることができる。身近な歴史文化の存在に気づくことで、「地域・郷土への愛着」の気運を効果的に高めていくことが期待される。





知立市【愛知県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：71,800人 ■面積：16km²
■担当課：知立市教育委員会 文化課（平成30年3月現在）



知立市の自然・社会・人文環境や歴史の変遷を整理し、市域内外を問わず知立市の歴史文化に関わるすべてのものを知立市の「歴史文化遺産」とし、その保存・活用を通じたまちづくりを推進することを目的とする基本構想を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

東海道池鯉鮒宿と松並木、伝説と景勝地・八橋、知立神社、
山車文楽とからくり、あんまき（知立名物のお菓子）

課題

- ・開発等による景観の変化
- ・山車文楽とからくり等の伝統芸能の保存と後継者不足
- ・歴史文化遺産を活用したまちづくり

保存活用方針

- ・歴史文化遺産の普及と保護の推進
- ・歴史文化遺産の適切な活用の推進
- ・行政と地域社会の連携・協働に向けた体制づくりの推進

保存活用のための取り組み

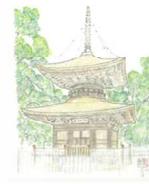
歴史文化遺産の普及と保護の促進

歴史文化遺産保護のための情報収集・発信の充実に向け、歴史文化遺産に関する刊行物の作成やイベント等の開催を実施する。そうすることで、市民の身近に歴史文化遺産があることに関心・理解を深めていく。



関連文化財群の保存・活用の推進

歴史文化遺産の保存と関連文化財群の充実化を図る。また、物語及び関連する歴史文化遺産の普及・周知を推進する。



歴史文化遺産の適切な活用の推進

歴史文化遺産を活用した学校教育・生涯学習の充実や、ユネスコ無形文化遺産にも登録された「知立の山車文楽とからくり」等の多様な歴史文化遺産の積極的な公開を推進する。

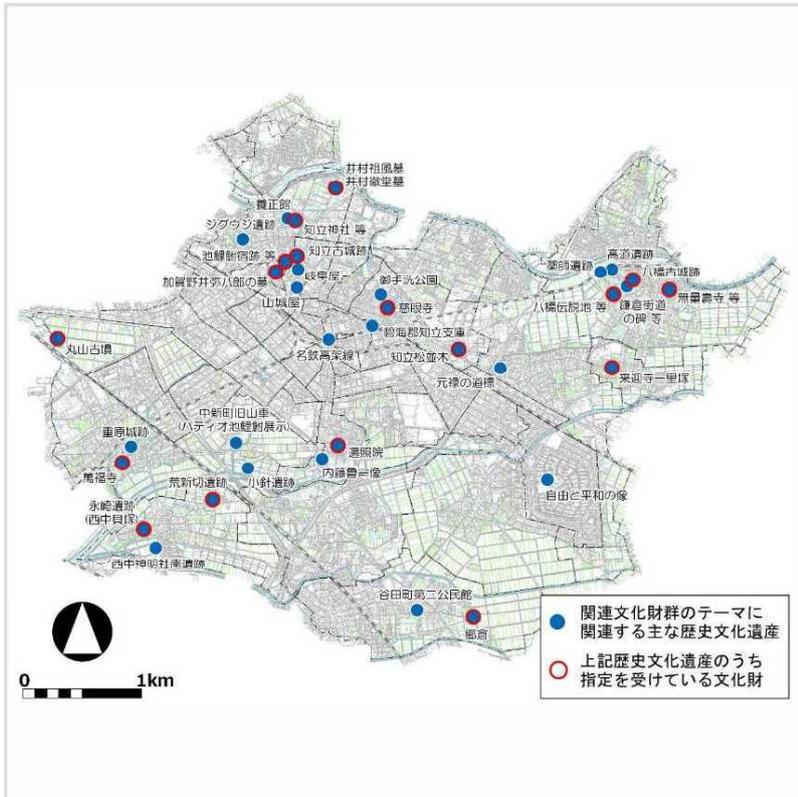


行政と地域社会の連携・協働に向けた体制づくりの推進

地域の人々が中心となって歴史文化遺産の保存・活用に取り組んでいくために、市民主導の歴史文化遺産周辺の清掃活動や歴史文化遺産のサポーター制度等の仕組みづくりを推進する。



関連文化財群



知立市の歴史文化の特徴である「地名とその名を冠した知立神社」と「東国への玄関となる尾張と三河の境での交流」で示した8つの具体例に基づき、双方に関連するテーマも含め、9つのテーマを設定した。そしてテーマを分かり易く伝えるため、各テーマを物語る上で重要となるストーリーを設定した。

ストーリー

- ① 古代から引き継ぐ地名
- ② 知立神社の信仰と祭祀
- ③ 山車文楽とからくりにより 継承されてきた交流
- ④ 逢妻川・猿渡川を通じた交易
- ⑤ 古代東海道と名所八橋
- ⑥ 鎌倉街道と戦国武将らの盛衰
- ⑦ 近世東海道と池鯉鮒宿の繁栄
- ⑧ 鉄道の開通と知立の近代化
- ⑨ 道路と鉄道の発展と宅地開発

中部地方

策定後の成果（見込まれる効果）

歴史文化遺産への理解の促進

知立市の歴史文化遺産について整理し、関連文化財群としてまとめることができた。これらを冊子・ホームページにて公開することで、市民や関連団体が知立の歴史文化遺産に関心をもち、理解を深める契機となることを期待できる。



関係部局との連携の促進

歴史文化基本構想策定にあたり、行政の関係部署にも策定作業に協力いただいた。策定後も他部局と連携を図る契機となり、都市計画マスタープランなど他の計画の策定・改訂においても本構想の方針が反映されることを期待できる。



課題の共有と活用の促進

知立山車文楽の後継者不足など、文化遺産が直面している課題を社会全体で共有することで、課題を乗り越え、歴史文化遺産を活用する気運の高まりが期待できる。

